

本のひろば



先週末は、この冬初めての大雪となり歩いたり、自転車や車で移動は危なく大変でしたが、中には雪遊びをして楽しく過ごした人もいないでしょうか。人にとっては危険であったり楽しみであったりする雪ですが、自然界にとってはこの厳しい寒さは必要なものだそうですよ。キャラクターとして有名なムーミンの絵本「ムーミンのともだち」の中でこんな場面があります。秋も深まった森の中をムーミンとスノークのおじょうさんが歩いていたら、木に小さなさなぎがありました。雪深い冬をこんなところで過ごすのは可哀そうだと思い二人がさなぎを家に連れて帰ろうとすると、それを見たミイが二人に「あんたたちって、なにも知らないのね。さなぎはだれにもさわられたくないの。ひとりでいなくちゃいけないし、さむくなくちゃいけないの。そうじゃなきゃ。つよいちょうになれないの(略)。」という場面があります。春に咲く花の球根も寒くなる前の秋に土の中に植えますよね。この厳しい寒さを耐え、超えることによって蝶々や花々が強く美しくなるように、私たち人間も今より強くなった自分に出会う為には厳しい冬が必要なのかもしれないですね。春はそこまで来ています。この寒さを乗り切って強くなった自分に出会えることを期待してみませんか？



作／トーベ・ヤンソン
こうだんしゃ 講談社



図書室の本の貸出しについて

3学期は、図書室の本が全て返却されているか、無くなった本はないかの点検をする蔵書点検があります。図書室の全ての本が揃っていないと点検が出来ないため、返却の最終日に必ず返却するようにしてください。また、間違えて学校のラベルが貼ってある本がお家の本の中に混ざっていないか、今一度確認してもらえると助かります。よろしくお願いします。貸出しは、2月28日金曜日までです。返却期限の最終日は3月7日金曜日です。

新しく入った本について

人気のシリーズ『サバイバル』シリーズと、『小学館の図鑑NEO』のシリーズが入ります。ただ、今回新しく入った2つのシリーズについては今年度は貸出しはせずに、図書室でのみ読めるようにします。図書の授業の時間や休み時間を利用して読んでください。



今月は図書委員が選んだおすすめの本

後期図書委員のメンバーが、それぞれに自分の好きな本を選び、その中から委員全員で投票してベスト5を決めました。今回はそれぞれの本の推しどころを書いてくれたのでみんなに紹介したいと思います。

「ただただ、カエルについて書いてある本です。カエルが好きではない人にもこんなに勇敢に生きているカエルのことを知ってもらいたい！」
あつ 熱くカエルについて語った一人の委員の思いが多く票を集めてまさかの1位となっ本。
著／種村ひろし あかね書房



図書委員が低学年に読み聞かせをする時など、常に選ばれる絵本の一冊。本当はとっても優しいゴリラなのに、パンを買いにきた動物たちはゴリラの顔を見たら逃げ出してしまおう。でも、最後はゴリラもみんなも笑顔に。読んだ人も笑顔になれる本。
作／白井三香子 金の星社



ももちゃんはおっとりしたお花好きな女の子。ある日、ももちゃんのお庭のお花をナメクジ達が食べていた。悲しくて泣いていたももちゃんを助けてくれたのは、やくみレンジャー。でも、ナメクジは大ボスを連れて戻ってきた。ももちゃんピンチ！！
作／さとうめぐみ PHP研究所



「ゆきなちゃんという女の子が病気で闘い11歳で亡くなるまでの本当にあった話。ゆきなちゃんは、命の電池が切れる最後まで一生懸命に生きようとした。命の尊さ、大切さを教えてくれる本です。ぜひ読んでみてください。」
『電池が切れるまで』 著／宮本雅史 角川つばさ文庫



主人公は6年生の時計店の息子。ある日、お父さんの作業部屋に入ったら不思議な鍵を発見。古い時計に差し込むと、12年前にタイムスリップし、亡くなったお母さんと出会った。切ないながらも心温まるお話です。
『からくり夢時計』 作／川口雅行 アルファポリス



